

健康福祉常任委員会会議記録（概要）

令和3年11月16日（火）

開 会（午前10時0分）

【議 事】

○特定事件「保健・医療について」

- ・所沢市市民医療センターの概要と現状について

【概要説明】

中村市民医療
センター総務
担当参事

本日は医務部看護科より重永看護科長、齋藤病棟師長、関原地域連携室長の3名が出席しております。後ほどの実務に関する説明・ご質問への回答などは、現場に詳しい看護科よりさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに施設の概要をご説明いたします。お手元の資料のうち、市民医療センターのパンフレットをご覧ください。背のところにEst.1976とございますのは、市民医療センターの設立年でございます。

市民医療センターは、国立所沢病院の移転統合に伴い、地域医療の確保と向上、また、市民の健康維持・増進を図る目的で、昭和51年9月に診療部門に健康管理部門を併設した病院として運営を開始し、本年度開設から既に45年を経過しております。

では、パンフレットの3ページ4ページをご覧ください。こちらのフロアマップと施設概要をご覧くださいながら説明させていただきます。診療科は内科、循環器内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、小児科、放射線

科を標榜し、さらに人間ドックを始めとする健診事業を行ってまいりました。敷地面積は18,305㎡、延床面積は6,246㎡で地下1階、地上3階建てとなっております。地下には、病棟食を調理する厨房と受変電設備などの機械室、1階は内科、小児科を中心とする外来診療部門をはじめ、臨床検査科、放射線科、薬剤科などが配置されております。2階は、人間ドック健診会場や、地域連携室やリハビリ室のほか、医師の執務室控室である医局、事務部門の総務課がございます。なお、北棟には3階がございますして入院病棟となっております。許可病床数は一般の内科病床として49床で、内訳といたしまして急性期病床が38床、地域包括ケア病床が11床となっております。この3階のある北棟につきましては、耐震診断の結果により耐震強度が基準に達していなかったため、平成12年度に耐震補強工事を行っております。

なお、停電時には自家発電機に自動で切り替わりまして、センター内の照明のほか、ワクチンなどの保冷库や臨床検査科の一部検査機器について利用可能となるように対応しております。

以上が施設の概要となりますが、続きまして、敷地内の建物につきまして簡単に説明させていただきます。資料の図面をご覧ください。敷地内には4つの大きな建物がございます。中央にあります互い違いに4つの建物が連結しているように見えますのが、こちらの市民医療センターです。その右側にありますが、健康推進部所管の保健センターになります。市民医療センターの上にあります二つの四角い建物については、右が、所沢市

医師会立の所沢看護専門学校で、所沢市医師会事務局もこちらの建物内に
ございます。左側が、所沢准看護学院でこちらも所沢市医師会立でござい
ます。施設等に関する説明は以上となります。

末吉委員長

それでは所沢市市民医療センターの現状を把握するため、委員会を休憩
し、現地調査を行うこととしてよろしいか。

(委員了承)

休 憩 (午前10時10分)

(※休憩中に所沢市市民医療センターについて現地調査を行う。)

再 開 (午前10時35分)

【概要説明】

中村市民医療
センター総務
担当参事

それでは、事業につきまして概要説明をさせていただきます。

パンフレットとこちらの年度別事業統計をご覧ください。

市民医療センターは、公的医療機関として地域に必要な医療の確保と保
健医療の向上及び健康維持・増進を図るため、内科の入院・外来診療、小
児科の外来・急患診療及び人間ドックをはじめとする健診事業を中心と
した病院事業を運営しています。

パンフレット4ページ目下段には、診療科目に加えまして、市民医療セ
ンターで実施しております小児の神経発達相談、乳幼児フォローアップ、
夜尿症の3つの専門外来、糖尿病についての内科の専門外来もご案内して
おります。

常勤医師の体制は5ページ目にございますとおり、内科はセンター長含めまして4名、小児科は5名となっております。

組織についてですが、市民医療センターの開設者は所沢市長となり、施設管理者はセンター長となります。

部といたしましては、内科、小児科、看護科、放射線科、臨床検査科、薬剤科の医療職からなる医務部と、業務・施設の運営管理を行う事務職員からなる事務部の2つの部がございます。

7ページ、8ページをご覧ください。外来のご案内がございます。まず、内科外来では、各医師が糖尿病、循環器内科、消化器内科という専門を生かしながら、広く一般内科の診療を行っています。専門外来につきましては、糖尿病外来ということで、入院患者の受け入れなどについて行いまして後方支援を担っているところでございます。小児科外来では、一般診療のほか、神経発達相談、夜尿症、乳幼児フォローアップ等の専門外来を行っています。

また、平日昼間の外来診療に加えて、小児夜間急患診療、小児深夜帯急患診療及び小児科日曜・休日急患診療を行うなど、小児初期救急医療体制の整備と安定的な運営に努めています。

9ページ10ページをご覧ください。健診事業でございます。

健診事業では、日本総合健診医学会認定の優良総合健診施設として、外来機能とは分離した専用の健診フロアを設け、人間ドック検診や特定健康診査等を実施しています。

健診事業につきましては、平成29年度から令和元年度にかけて減少傾向にありましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、特に利用数が減少し令和元年度と比較しますと約4割減となっております。

事業統計をご覧くださいますと、令和2年度については全ての事業が大きく減となっております。

パンフレット11ページの入院事業ですが、当センターでは一般病床49床を有し、内科の入院診療を行っています。平成30年11月から11床に地域包括ケア病床を導入し、紹介入院患者の受け入れなど、地域の医療機関と連携し在宅医療の後方支援を担っています。

この地域包括ケア病床を導入したことにより、入院患者数・病床利用率ともに大幅に増加しましたが、こちらも令和2年度には大きく減となりました。

この大きな影響を受けておりますコロナについてですが、昨年度から今年度にかけては、通常の業務に加え、新型コロナウイルス感染症への対応がありました。

続きまして、コロナ対応に関する状況につきましてもご報告させていただきます。「新型コロナウイルス感染症に関する取り組み」をご覧ください。

4月にもご報告をさせていただいているところですが、市民医療センターの取り組みといたしましては、発熱外来の開設、所沢市医師会

PCR検査センターの運営協力に加えまして、埼玉県指定診療検査医療機関の届け出、アフターコロナといわれるコロナ回復後の患者の受け入れ、新型コロナウイルスワクチン接種を実施しております。

発熱外来・PCR検査センターの診療実績といたしまして、資料1の表をご覧ください。特に発熱外来の患者数と陽性率を見ていただきますと、状況が良くお分かりいただけるかと思えます。

令和2年4月から追っていきますと、特に大きく変動いたしましたのが、本年8月時点になります。陽性率が44.2%ということで、かなりの陽性率となっております。こちらにつきましては、発熱外来とPCR検査センターだけを抽出しておりますが、実際は通常の内科外来や小児科外来でも検査を行っておりまして、学校や保育園といった施設での集団の検査も行いましたことから、実際の総検査件数は令和2年度で1,019件、令和3年度10月末の時点で2,075件となっております。こういった検査と並行しながらワクチン接種などの事業を行ってりましたので、一時期はかなり多忙な状態となっております。

関原看護科副
主幹

続きまして、入院事業にも大きくかかわりがございます地域連携室の業務につきまして説明をさせていただきます。資料は「地域連携室の活動」とパンフレットの14ページをご覧ください。

業務としては、1つ目として大きく分けて入院相談と入院調整を担当しております。主に急性期の病院である所沢中央病院、所沢明生病院や西埼

玉中央病院、防衛医科大学校病院などから、急性期の治療を終えた方のリハビリ目的などのご相談をいただいております。あとは地域の開業医の先生方から風邪をこじらせたとか熱があるという方の入院の相談や地域のケアマネジャーや地域包括の方々からの相談をいただいております。介護に携わっている方からのご相談もいただいております。

2つ目として、退院の調整をさせていただいております。入院された患者さんのご家族からご本人の意向を確認して、今後どのような生活をされたいのか情報を聞きながら、病状や家族の介護能力や経済力に配慮して、今後の生活の場や、自宅に帰るのであればケアマネジャーと相談しながらサービスの調整やリハビリを進め、患者さんのゴールを決めて帰宅への調整をしております。

3つ目として、外来の相談を行っております。市民医療センターの外来に通院されている患者さんの通院中の薬の管理や受診中の様子をケアマネジャーに伝えたり、訪問看護師との連携をしております。介護保険の主治医意見書の一元化ということで地域連携室で管理しております。他の病院への外来予約の代行業務等も行っております。

4つ目として、広報活動をしております。この2年間はコロナの影響で開催しておりませんが、年1回地域交流会を開催しております。また、地域で行われる講演会に出席しております。また、地域の医療機関や施設に訪問し、情報交換などを行っております。

【質 疑】

城下委員

子供のアレルギーについての専門医が週に何度か来ていたと記憶しているが、今も対応は継続しているのか。

中村市民医療

小児アレルギー外来につきましては、担当医師の退職等に伴いまして、

センター総務

平成29年3月をもって現在は休止しております。

担当参事

城下師子

医師が確保できれば再開するのか。

中村市民医療

医師の確保ができ、その方の専門性を生かせるということであれば、そ

センター総務

ういった専門外来の開設も検討しているところです。

担当参事

城下委員

メディカルソーシャルワーカーは配置されているのか。

関原看護科副

メディカルソーシャルワーカーは今はおりませんが、ソーシャルワーカー

主幹

がおります。

城下委員

メディカルソーシャルワーカーの配置は重要だと思っていて、配置されていると思っていた。今後は配置の準備をしていく予定はあるか。

中村市民医療センター総務担当参事 人員体制につきましては、事務職であれば通常の異動の範囲内となりますので、今後必要に応じて職員課に相談していくこととなります。

担当参事

城下委員 入退院経路の分類というところで、それぞれ自宅、病院、施設ということと末期がん患者や老衰等の看取りの患者の対応をされているとのこと、緩和ケアも行っているということだと思う。痛みのコントロールということでは、麻酔科の医師の確保が課題だと以前に聴いているが、そういった人材確保ができたということで看取りの事業を行っているということか。また、いつごろから看取りの対応をしているのか。

中村市民医療センター総務担当参事 緩和ケア病棟ということで受け入れているということではありませんが、痛みの緩和ということで、麻薬の取扱い資格を持つ医師を確保しております。

城下委員 ケースによって対応をしているということか。

中村市民医療センター総務担当参事 そのとおりです。

センター総務

担当参事

谷口委員

看護師の人手不足感はどのような状況か。

重永看護科長

小さい病院ですので、ギリギリのところでは回しているところですが。看護師を各部署に配置したいところですが、病棟に看護師を集めて一元化して、各部署にリリーフを出している状態で体制を保っている状況です。

谷口委員

看護師の労働マーケットというところで、どのような対策をすれば採用ができると考えているのか。

中村市民医療
センター総務
担当参事

採用に関しましては、職員課と協力いたしまして年度内に時期を限定せずに採用できるように相談しております。なかなか勤務形態に合った方に来ていただくことが難しい状況でして、特に夜勤帯につきましてはどこの病院も不足していると聞いておりますので、正直なところ、なかなか確保は苦勞しているところです。

谷口委員

リハビリにつきまして、技術開発の中でロボットのような新しい取り組みや準備していることはあるか。

重永看護科長

ロボットにつきましては、医療業界でも少しずつ普及していると研修会などで聞いておりますが、当センターでは患者と極力話す機会を設けたい

と思っておりますので、機械での対応というよりは対面对応を重視し、会話の中から患者の情報や気持ちを引き出しながら訓練を行っていきたいと考えております。

長岡委員

人間ドックに女性医師がいないと思っているがいるのか。

中村市民医療

問診などでは女性医師が対応することもございます。

センター総務

担当参事

長岡委員

私が人間ドックを受診した際に男性が担当だった。レディースデイだったのに担当が男性だったので、それが気になった。なので、できれば担当医師が女性だったらいいなと思った。今後はそういう配慮をすることは難しいか。

中村市民医療

なかなか調整が難しいところかと思いますが、そういった要望もあると

センター総務

思いますので検討課題にさせていただきたいと思います。

担当参事

長岡委員

人材確保ということで理学療法士の方はどのように対応しているのか。
市内に早稲田大学スポーツ科学部があると思うが、そこでは理学療法士の

資格が取れると思う。地域の学生を採用して、人材確保につなげていくと
いうことはできないか。所沢市議会では早稲田大学の学生を受け入れて、
市役所の採用試験を受けた方も実際にはいるので、そういう取組はしてい
るのか、今後していくのか。

中村市民医療
センター総務
担当参事
理学療法士ではございませんが、医師の確保については大学等にも相談
して確保できればと思っているところです。現状といたしまして理学療法
士は一般から採用ということで広報に力を入れているところです。

長岡委員
インターンの受け入れ等はしていないのか。

中村市民医療
センター総務
担当参事
現時点では行っておりません。

石原委員
同じ敷地内に准看護学院と医師会があったが、建物は市のものなのか。
貸出の賃料地代が分かれば示していただきたい。

中村市民医療
センター総務
担当参事
准看護学院の建物に関しましては市のもので貸出しているもので、医師
会の建物につきましては土地は市のものですが、建物は医師会のものとな
ります。土地の管理は管財課で行っております。

石原委員

所沢看護専門学校との業務連携や人材についての進路や採用の連携はしているのか。

重永看護科長

実習にはいらっしゃっていますが、市民医療センターでは看護師がギリギリの状況とご説明させていただきましたが、即戦力が必要となりますので新人を採用するということはしておりません。そういった点では連携はできておりません。

城下委員

リハビリについてはきめ細かく対応しているとのことだった。退院後の在宅で生活を維持する場合の環境整備は事前に確認しているとのことだが、診療報酬での点数加算はどうなっているのか。

重永看護科長

入院中の患者につきましては、退院前訪問指導料という加算がございます。一回あたりいくらという形で入院患者につきましては、一入院につき二回まで算定が可能となります。また、退院時に指導書を作成することがあり、その際には退院時リハビリテーション指導料ということで算定することができます。こちらは一回限りのものとなります。どうしても文書だけではやりたくなくなってしまう方もいらっしゃるので、プリント等で目で見て分かるものを作成することもございます。

城下委員	リハビリは一人では継続することが難しい。市内医療機関でそこまで対応しているところはあるのか。
重永看護科長	市内の病院でどれくらい力を入れているかは分からないのですが、病院によっては365日リハビリを提供しているところもありますし、場所によっては月曜日から金曜日ということもあります。病院の形態によって対応は変わってくると思います。
末吉委員長	この際、委員として質疑したいので、副委員長と交代します。
城下副委員長	それでは、委員長の職務を行います。
末吉委員	健康福祉常任委員会では、地域包括ケアシステムについて審査をしてきているが、退院後の地域での生活ということで様々な課題があると思っているので、退院支援は素晴らしいものだと思う。在宅にスムーズに移行していく中で何が課題になっていると考えているか。
重永看護科長	入退院支援を行う場合ですが、今は特にコロナ禍ということで、病気を発症されて入院して治療を終えた時に、患者の家族は入院前の元気な姿をイメージしているが、入院している間にどんどん身体能力が低下してしまっています。コロナ禍で面会も頻繁にはできないので、急性期病院を退院

した時に家族が患者と会っていなかった間の身体の変化とイメージと合わないところがありますので、そういった時に当院の地域連携室に相談し、入院前の生活情報を得ながら、今後の回復の課程でどのような経緯を辿るべきか相談しながら対応しています。入院前の生活状態であったり、家族の思いや家や地域の環境の情報と回復過程を照らし合わせながら、患者や地域のケアマネジャーやヘルパーに情報提供をしながら連携しています。

城下副委員長

それでは委員長と交代します。

村上委員

地域包括ケア病棟で60日を超えた場合の診療報酬はどのように変わるのか。逆に60日以内で自宅に帰ったりすることが難しいのか、復帰率が高いのか現状について示していただきたい。60日を超える場合はどのような報酬になるのか。

齋藤看護科副

主幹

診療報酬については60日を超えるとかなりの減算になるところがありますので、一般病床に入院していただき、家族の思いや復帰の時期、治療状況を含めまして60日以内に退院できる見込みのある方を地域包括ケア病床に転床し、ベットコントロールをしています。ですので、60日を超えることはほぼございません。

村上委員	方向性が見えてこない、受け入れは難しいということか。
齋藤看護科副 主幹	地域包括ケア病床への転床については、在宅復帰率70%以上という数値を見ながら検討しているが、一般病床での入院が長くなってしまおう方を移すなど担当者でのベットコントロール会議で決めております。
村上委員	地域包括ケア病床から再度一般病床に戻すことはできるのか。
齋藤看護科副 主幹	できません。
中村市民医療 センター総務 担当参事	補足させていただきますが、入院期間も含めて患者が適した病床に入れるように対応しているということです。そういったところを市民医療センターで探すということをしております。
末吉委員長	この際、委員として質疑したいので、副委員長と交代します。
城下副委員長	それでは、委員長の職務を行います。
末吉委員	コロナ禍でのベットコントロールとしては何床まで入れるのか。

中村市民医療 センター総務 担当参事	病床数は49床となっておりますが、実際に稼働できる病床としては47床となっております。
城下副委員長	それでは委員長と交代します。
村上委員	陰圧室は1つしかないので、コロナ患者ではなく陰性となった方が自宅に帰るまでの間に預かるのは1室のみということか。
重永看護科長	アフターコロナ患者につきましては一般病床で対応しております。
村上委員	コロナ患者については陰圧室が一つしかないのか。
中村市民医療 センター総務 担当参事	陰圧室につきましては感染症患者ということなので、コロナに限ったものではありませんが一つございます。加えて、陰圧のテントを用意しましたので、合わせて二部屋、院内感染者や感染の疑いのある方に入っていたく部屋を用意しております。
末吉委員長	この際、委員として質疑したいので、副委員長と交代します。
城下副委員長	それでは、委員長の職務を行います。

末吉委員

コロナ患者の方も受け入れたことはあるか。

中村市民医療

医師や機器類も必要となりますので、コロナ患者の受け入れはしており

センター総務

ませんが、退院基準を満たした方は受け入れております。

担当参事

末吉委員

49床あるとのことだが、全て使えるのか。

齋藤看護科副

コロナの影響で患者の紹介が減っていましたので使うということはある

主幹

りませんでした。患者の高齢化が進んでいるので、徘徊や転倒のリスクがありますが、病棟の構造上、ナースステーションから患者の部屋を直接見ることができないので、一番奥の部屋になりますとナースの目が届かないので、部屋が空いていても手前の部屋が空くまでお待ちいただくこともあります。

中村市民医療

ナースステーションから一直線に見えるのが奥の多床室になりますが、

センター総務

逆側の個室が並んでいるところは、ナースステーションを通らずに階下に

担当参事

行ける構造になっておりますので、管理面から現在の患者層で満室というのは難しいと思われます。

城下副委員長	それでは委員長と交代します。
村上委員	今年度の予算上では病床数は33室か。
中村市民医療 センター総務 担当参事	令和3年度当初予算では30床となっております。
村上委員	コロナの影響はどの程度関係しているのか。
中村市民医療 センター総務 担当参事	一時期受け入れの際に観察期間を設けていたときには入り口が狭まったことは言われていましたが、今は落ち着いているのではないかと思います。
城下委員	入院についてはコロナの影響は見られないとのことだが、外来についてはどうか。今は感染状況も落ち着いているが、コロナ前の伸び率と比較するとどうか。
中村市民医療 センター総務 担当参事	外来に関しましては、特に小児科が激減しておりましたが大分戻ってまいりました。発熱するお子さんが増えたり、今年の夏はRSウイルスが流行したため、一時急増したこともございました。内科に関しましても戻っ

てまいりましたが、離れてしまった方は全て戻ってはおりません。今年度はインフルエンザが流行することが予想されてはいます。

城下委員

手足口病も流行していると聞いているがどうか。

重永看護科長

溶連菌が流行していることは聞いております。

長岡委員

富山市に視察したことがあったが、市内に医療系や看護系の大学があり、市が連携して育成しながら、病院で働いてもらうような仕組みがあった。即戦力を求めているとのことだったが、インターンから受け入れて就職するまでに即戦力になるよう育成するような環境を整えることは難しいのか。

重永看護科長

本来はそうしたいところですが、若い方の採用が難しい理由として、保育所が無いということがございます。民間であれば24時間お子さんを預かってくれるところがありますが、当院にはございませんので夜勤が難しいので、お子さんをお持ちの世代では条件的に難しいと思われま

中村市民医療

小児科の医長として女性医師が今年度一名採用となりました。

センター総務

担当参事

長岡委員

レディースデイでは民間では女性医師が対応しているので、それが当たり前だと思っていたので、女性医師が増えることを望みます。

村上委員

市民医療センターは固定客が多いのか。

重永看護科長

長年、外来から人間ドックまで通っていただいている方は多いです。

【質疑終結】

末吉委員長

以上で説明に対する質疑を終結し、本日の審査を終了いたします。

散 会（午前11時27分）